介護事故－ヒヤリ－㉖
令和５年 ４月 １日

介護事故およびヒヤリハットについて

ふるさとの丘では、介護事故予防および介護事故再発防止のために、各部署のスタッフからヒヤリとした介護内容および介護事故につながってしまったことなどを迅速に報告させています。そして、これらの報告書を各スタッフが共有し、介護事故防止に役立てております。

今回は、令和４年 10 月１日から令和５年３月 31 日の間において報告された介護事故(５件) およびヒヤリハット(98 件)の内容の一部を開示させていただきます。

□介護事故

[令和４年 10 月 19 日] ―ショートステイ

16 時 30 分頃、 医師の処方に指示のない夕食前のインスリン注射薬を投与してしまいました。

報告を受けた別の看護職員が、すぐにご利用者の状態を観察すると、冷や汗、気分不快なし、顔面紅潮であるものの、急変は見られませんでしたので、主治医に報告し指示を仰ぎました。

医師からは、このインスリン注射薬は速効性ではないので大丈夫だとは思う。念のため今夜様子に変化があった場合はすぐに病院へ連絡する様にとの指示があった。

原因は当ご利用者のインスリン注射が朝食前のみであったのに、食前の血糖値チェックが朝夕の１日２回であった為、それにセットだと思い込み、確認せずに注射してしまったことによります。

⇒ (改善)

新規利用者の場合、利用開始日から３日間程度は２人で確認をする。そして、薬の飲み方や回数、インシュリン投与の回数などは時間差を設けて１人ずつ確認し、それらをお互いに確かめてからサービスを提供することにしました。

[令和５年２月 26 日] ―入所

３時 45 分頃、巡視の為に訪室すると、ご利用者が左側臥位で床に倒れていました。

他職員と２人介助にて車椅子に移乗し、外傷等を確認すると、顔面左側と左腕に発赤あり左肩には腫れが見られた為、オンコールにて看護師に連絡の上、朝まで様子をみました。トイレに行こうと起き上がり、転倒されたものと思われます。

朝食の際、自力摂取されていましたが、その際に左肩を動かすと痛みがある様子でしたので、病院受診をしました。診断の結果、左上腕部骨折と診断され 10 日間の入院になりました。

⇒ (改善)

夜間、靴はベッドサイドのセンサーマットの上に置き、ご本人が立ち上がったらセンサーマットを踏むような配置にしました。

[令和５年３月８日] ―ショートステイ

５時 00 分頃、巡視の為に訪室すると、認知症のご利用者が居ませんでした。施設内および周辺を捜索するも発見できない為、８時 00 分頃警察に捜索を依頼しました。

居室の様子は、掛け布団がたたまれ、洋服とパジャマがなく、サッシが開錠されており、ベランダの門扉は施錠された状態でした。

８時 30 分頃三島市加茂川町付近で座り込んでいた所を近隣の方が声を掛け発見に至りました。

⇒ (改善)

居室のサッシに開閉センサーを設置しました。また今後はご本人の不穏のサインを見逃さないよう注視していきます。

■ヒヤリハット

[令和４年 11 月 26 日] ―入所

４時 30 分頃、巡視のため訪室すると、床にうつ伏せになっているご利用者を発見しました。

居室では障子が外れ床に血液が点々と付着した状態でしたので、すぐに他の職員と一緒に抱き起し外傷等を確認しました。左頭部に切り傷があり、止血およびガーゼで保護しました。ご本人の説明によると、トイレに行こうとした際にバランスを崩して転んだとのことでした。

⇒ (改善)

歩行は自立のご利用者ですが、最近は膝も上がらなくなってきている為、その日の状態を見ながら適宜、介護職員が付き添う様にしました。